

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	地域福祉論	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職の役割と実際、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際について理解する。そして地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービス評価方法を含む)についても学ぶ。	
授業の到達目標	在宅福祉や地域福祉サービスについての理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
新しい社会福祉システム 教科書 pp.2-13 ① 域福祉の発展過程、②行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉		1
新しい社会福祉システム 教科書 pp.14-33 ② 新しい生活課題に対応する地域福祉④新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉、④福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成		1
地域福祉の基本的な考え方 教科書 pp.36-56 ① 地域福祉理論の発展と広がり、②地域自立生活支援と地域福祉の理念、③地域のとらえ方と福祉圏域、④地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携		1
地域福祉の主体と福祉教育 教科書 pp.56-76 ① 地域福祉の推進と福祉教育、②地域福祉の推進と福祉教育の歩み、③福祉教育の概念と内容		1
行政組織と民間組織の役割と実際 教科書 pp.78-109 ①社会福祉における地方分権化と地域福祉計画、②社会福祉協議会の役割と実際、③社会福祉法人の役割と実際		1
行政組織と民間組織の役割と実際 教科書 pp.110-132 ③ 特定非営利活動法人の役割とボランティア活動、⑤民生委員・児童委員・保護司、⑥福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献		1
コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 教科書 pp.134-172 ①コミュニティソーシャルワークの考え方、②コミュニティソーシャルワークの展開とシステム、③コミュニティソーシャルワークの方法、④専門多職種チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク、⑤専門職と住民の関係		1
住民の参加と方法 教科書 pp.174-194 ① 地域福祉推進における住民参加の意義、②市町村社会福祉行政における住民参加、③住民の代表性と参加方法		1
ソーシャルサポートネットワーク 教科書 pp.196-212 ① ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置、②ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ、③事例から読みとくソーシャルサポート		1
地域における社会資源の活用・調整・開発 教科書 pp.214-238 ①社会資源の活用と開発、②ニーズ対応型福祉サービスの開発、③税制優遇と助成金の活用、④福祉でまちづくりとソーシャルアクション		1
地域における福祉ニーズの把握方法と実際 教科書 pp.240-252 ① 域福祉におけるアウトリーチの意義、②質的な福祉ニーズの把握方法と実際、③量的な福祉ニーズの把握方法と実際		1
地域トータルケアシステムの構築と実際 教科書 pp.254-279 ① 地域トータルケアシステムの必要性和考え方、②地域トータルケアシステムの展開方法、③地域トータルケアシステムの事例、④ソーシャルケア従事者の研修と組織化		1

地域における福祉サービスの評価方法と実際 教科書pp.282-298 ① 福祉サービスの評価を必要とする背景、②評価の考え方、③福祉サービスの評価方法と実際、④福祉サービスのプログラム評価とその展開	1
災害支援と地域福祉 教科書pp.300-312 ① 災害支援の考え方と方法、②災害支援の実際	1
日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 教科書pp.314-329 ① イギリス、②アメリカ	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	障害児療育	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場として統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的知識と対応力の向上は必須となっている。 本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識をふまえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にある保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携等に視点をおきながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。	
授業の到達目標	障害児に対する接し方や保護者支援について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	小林保子、立松英子『保育者のための 障害児療育－理論と実践をつなぐ－』学術出版会。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
障害の理解（教科書pp.11-22） Key words: ICIDH、ICF、児童の権利に関する条約、障害者基本法、保育所保育指針		1
障害のある子どもの生活を支える福祉や医療の制度（教科書pp.23-32） Key words: 手帳制度、発達障害者支援法、障害者総合支援法、小児慢性特定疾患治療研究事業、臓器移植		1
障害のある子どもの発達（教科書pp.33-42） Key words: 発達の偏り、IQ、DQ、発達プロフィール、言語、運動、情緒、社会性、ボトムアップ、トップダウン		1
療育における家庭の子育て支援（教科書pp.43-54） Key words: ライフステージ、障害の受容、Drotar の図、早期発見、早期療育、相談事業、地域支援		1
療育の種類と支援・専門家との連携（教科書pp.55-64） Key words: 統合保育、分離保育、並行通園、交流保育、通園施設、通所施設、病棟保育、		1
地域における専門機関との連携（教科書 pp.65-72） Key words: 発達支援センター、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理職、福祉職、Trans disciplinary な支援		1
就学への移行と特別支援教育（教科書 pp.73-89） Key words: 小学校との連携、個別の支援計画、特別支援教育、就学基準、特別支援教育コーディネーター		1
よりよい療育実践のために（教科書 pp.93-107） Key words: 発達の観点、非嫌悪的接近、合併症、発達検査(評価)、療育プログラム、実態評価		1
知的障害児への支援（教科書 pp.109-115） Key words: AIIDD の定義、知的機能、適応行動、認知、視知覚、協調運動、記憶		1
肢体不自由児への支援（教科書 pp.117-132） Key words: 身体障害、脳性まひ、痙直型、アテトーゼ型、失調型、筋ジストロフィー、重症心身障害児、健康特性		1
自閉症を伴う子どもへの支援（教科書pp.133-142） Key words: 自閉症スペクトラム(ASD)、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、こだわり、視覚支援		1
「気になる子ども」への支援（教科書 pp.143-150） Key words: 落ち着きがない子ども、注意欠陥多動性障害、強度行動障害、虐待との関係		1

教材・教具と発達支援 (教科書 pp.151-159) Key words: 触覚、はめ板、動作性課題と言語性課題、認知発達学習	1
運動遊びと発達支援 (教科書 pp.161-178) Key words: 粗大運動、微細運動、知覚運動、調整運動、身体意識、感覚運動期、前庭覚、固有覚、ムーブメント	1
事例に基づいて	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	福祉行財政と福祉計画	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	現代の社会福祉サービスや支援は国が基本的な政策の方向を示すものの、市町村をベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民および事業者が参加して計画立案に基づいて実施することが求められている。 このことから、社会福祉の法制度の展開や福祉計画との関連や、国と地方自治体との関係、行政の仕組み、財政の仕組みについて、また、福祉計画の意義とその技法について学修するとともに福祉計画の事例を通して計画策定過程、技法を学修する。	
授業の到達目標	福祉の法制度の展開や、福祉行政について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1セクター（民間）と第2セクター（行政）の類似点と相違点について学修する。		1
福祉と制度 福祉を実現する主体と機能、社会福祉の捉え方、社会福祉と社会保障の違いについて学修する。テキストpp.2-10		1
福祉の法制度の展開 時代によって福祉と関連し、どのような制度ができ、時代別どのような特徴があるのかについて特に社会福祉における市場と行政の機能変化を中心に学修する。 テキストpp.11-23		1
福祉計画の概要 社会福祉と計画の関係、福祉行政と福祉計画について学修する。 テキストpp.24-31		1
行政の骨格と社会福祉の法制度 中央政府の役割と地方自治体の関係、そして社会福祉の法令を読むポイントについて学修する。テキストpp.34-43		1
福祉行政の組織（中央および地方政府を中心に） 福祉行政の役割や機能について中央と地方の組織に区分し、それぞれについて学修する。テキストpp.44-51		1
社会福祉基礎構造改革と特に福祉サービスの利用方式にはどのような方法があるのかについて学修する。テキストpp.54-60		1
国の財政と社会福祉 社会保障給付費とは、社会保障給付費の推移、社会保障関係費の動向などについて学修する。テキストpp.62-68		1
地方自治団体の福祉財政 地方自治団体の行政と民生費の動向、民間と利用者負担について学修する。テキストpp.69-75		1
福祉行政の専門機関と専門職 福祉関連専門機関と専門職はどのようなものがあるのかについて学修する。テキストpp.86-100		1
福祉計画の基本的視点 計画と計画化、目標と目的の違いやPDCA サイクル、福祉計画の概念や主体そして類型について学修する。テキストpp.116-133		1
福祉計画におけるニーズ把握 福祉計画作成の際市民のニーズ把握はどのような方法があるのか、また、それはなぜ重要なのかについて学修する。テキストpp.134-141		1
福祉計画における評価 評価の方法とその重要性について学修する。 テキストpp.142-148		1

福祉計画の事例研究の視点と種類 福祉計画の種類とその内容について重要なポイントを中心に学修する。テキストpp.158-163	1
住民参加 福祉計画における住民参加の方法となぜそれが重要なのか。 テキストpp.149-155	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	権利擁護と成年後見	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践について理解する。	
授業の到達目標	成年後見制度および動向と課題について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』中央法規出版。	
授業上の注意点		
授業計画 (内容)		コマ数
社会福祉士や精神保健福祉士が成年後見活動を行う上での留意点について、「権利擁護」の視点を学修する。 成年後見制度の概要を理解した上で、特に社会福祉士や精神保健福祉士といったソーシャルワーカーに求められる「身上監護」を軸とした成年後見活動を行う際の留意点を中心に考察する。また、「倫理綱領」等と照らして、権利擁護(アドボカシー)の一環としての成年後見活動とは何かを考察する。		1
「権利擁護」の具体化としての成年後見制度の位置づけ、ソーシャルワーカーとしての後見活動のあり方を考察する。特に、入口としての「権利擁護相談」においてソーシャルワーカーが果たすべき役割(相談援助や連絡調整の専門職としての役割)ニーズ発見と制度へのつなぎ、権利擁護制度の利用支援とコーディネート、成年後見制度の理念と身上監護の担い手としてのソーシャルワーカーのあり方について理解する。また、権利擁護センター「ばあとなあ」の取り組みや実践内容について学修する。		1
法定後見制度の概要について理解する。 「成年後見の概要」「保佐の概要」「補助の概要」を理解する。特に、それぞれの対象者(成年被後見人「被保佐人」「被補助人」)について理解し、具体的な申立ての流れについて学修する。		1
任意後見制度の概要について理解する。 任意後見契約の締結、任意後見監督人選任の申立て、任意後見契約の効力発生、任意後見人の後見事務、任意後見監督人による任意後見人の監督、任意後見契約の終了の実践について学ぶ。		1
成年後見人等の義務と責任について理解する。 成年後見業務の特徴を踏まえた上で、善管注意義務、身上配慮義務及び本人の意思尊重義務、居住用不動産の処分、利益相反行為、家庭裁判所との連携、保佐人・補助人の義務と責任について学ぶ。		1
成年後見制度の最近の動向を把握し、今後の課題を考察する。 成年後見制度の運用状況を理解し、医療行為の同意といった課題、本人死亡後の成年後見人の事務、市町村長申立ての活性化、成年後見人の養成のあり方、後見制度支援信託の導入などについて考察し、「誰でも利用できる制度」として、今後どのように改善していけばよいのかを学ぶ。		1
日常生活自立支援事業の概要について学ぶ。 日常生活自立支援事業の創設の背景を理解した上で、日常生活自立支援事業の仕組みと内容、具体的な活用の仕方について、現状と課題を考察する。		1
日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携のあり方について理解する。 日常生活自立支援事業と成年後見制度のそれぞれの特徴と相違点、日常生活自立支援事業と成年後見制度の利用の考え方を踏まえた上で、両制度の併用などについて考察する。		1

権利擁護にかかわる組織・団体について、それぞれの役割や連携の必要性について学ぶ。 特に、家庭裁判所の権限や役割・組織をはじめ、法務局の位置づけや業務内容、市町村の役割と市町村長申立て、社会福祉協議会と権利擁護、児童相談所の役割と児童虐待への対応について理解する。	1
権利擁護に向けた相談援助活動と法の関連を学ぶ。 相談援助活動において想定される法律問題を理解する。そのために、日本国憲法とその基本原理、行政法とは何か、民法における契約の概念や親族法・相続法、その他の社会福祉関連法について理解を深める。	1
成年後見制度利用支援事業の概要について理解する。 成年後見制度利用支援事業の変遷、成年後見制度利用支援事業の現状と課題及び留意点、事業の創設の経緯から将来的な展望までを概観する。	1
権利擁護にかかわる専門職の役割を理解する。 権利擁護にかかわる専門職の役割例としては、介護保険法と弁護士との役割、権利擁護における司法書士の役割、任意後見契約と公証人の役割、鑑定・診断を行う医師としての役割、権利擁護相談と社会福祉士の役割等を学ぶ。	1
「身上監護」を軸とした社会福祉士の成年後見活動について学ぶ。 また、社会福祉士の成年後見活動の実例として、「権利擁護相談」のシステムにおける現状と課題、権利擁護・成年後見活動における社会福祉士会の取り組み等についても具体的に理解する。	1
対象種別・対象領域に応じた成年後見活動の実例を、事例を通じて实际的に学修する。 具体的には、「認知症を有する者への支援の実例」「消費者被害を受けた者への対応の実例」「障害児・者への支援の実例」「市町村長申立てのケースへの対応の実例」等の事例について、成年後見活動の実例を理解する。	1
対象種別・対象領域に応じた権利擁護活動の実例を、事例を通じて实际的に理解する。 具体的には、「被虐待児への対応の実例」「高齢者虐待への対応の実例」「アルコール等依存症への対応の実例」「非行少年への対応の実例」「ホームレスへの対応の実例」「多問題重複ケースへの対応の実例」等の事例について権利擁護活動の実例を理解する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	家族福祉論	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	この家族福祉論では、現代の多様化した家族の状況や抱える様々な問題や課題を提示し検討する。また、それらの問題や課題の解決・緩和を遂行するために必要なサービスやアプローチ、ネットワークなどについて学修する。加えて、この科目では、多彩なクライアントの選択や生き方などを尊重し、それらについて理解した上で環境を整え(エンパワメント)彼らの健康的な領域を発見するとともに強化(ストレングス)し、より望ましい形で支援を提供するにはどのようにすればよいかについて考える力を養い、柔軟な思考や問題や課題ができるように学修する。	
授業の到達目標	子どもや家族に対する法制度や取り組み等について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
人間にとって家庭とは何か。 家庭は子どもが成長するためや家族員にとっては教育や福祉、コミュニケーションなどを学ぶために重要な役割や機能を有している。		1
わが国の社会状況の変化と家庭 少子高齢化や核家族化が進み、且つ経済的な悪化が長く続くなかで、就労ができない若者や貧困家庭、ひとり親家庭の増加が際立ってきている。また、家族員の関係も希薄化し、DVや虐待などが問題になりつつある。		1
現代社会の家庭が内在している問題や課題 経済格差や学力格差、社会的孤立、貧困の連鎖、養育力や介護力の低下などが問題化してきている。		1
家庭支援の対象と役割 乳幼児の保育支援、保護者の子育て支援、さまざまな問題に関する相談援助、学力が低い児童への学習指導、障害児童などに対する養育支援、ひとり親家庭に対する支援などが実施されている。		1
子どもと家庭 子どもにとっては、生活の基盤であり、人間として成長していくために必要な愛情や栄養・環境を与えられる重要な居場所である。特に、保護者と子どもとの適切な関係形成は必要不可欠である。		1
保育士による家庭支援 保育士は、保育所における乳幼児へのケアを行うばかりではなく、乳幼児や保護者の相談相手になり、地域で暮らす住民の障害を持つ乳幼児を対象として支援を行ったりする。		1
要保護児童とその家庭支援 要保護児童とは、保育に欠ける児童、障害児童や病弱な児童、非行傾向にある児童などのことを意味するが、これらの児童には、それぞれの児童の抱える状況に相応する家庭支援が必要とされ、根拠法に基づいた福祉サービスが準備されている。		1
家庭への個別的な支援 個別的な支援が必要とされている場合には、それぞれの状況に応じて、適切な福祉サービスが提供される。特に、児童虐待が心配される家庭やひとり親家庭、多問題を抱えている家庭には、個別的な支援の提供に力が注がれている。		1
家庭への支援にかかわる法と制度 児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、児童虐待防止法、生活保護法などに関する法制度は根拠法となり、家庭を支援する。		1
家庭を支援する社会資源 児童や母子などを支援する機関として、児童相談所や児童家庭相談室、保健所、社会福祉協議会、児童委員(民生)警察の生活安全課などがあり、日々、家庭の相談や支援に力を注いでいる。		1

子どもや家庭を支える社会福祉施設 児童福祉施設には、養護系施設と障害系施設があり、障害系施設には、福祉型と医療型の施設がある。	1
地域支援の必要性 児童福祉の問題は、可能な限り地域社会で支援したり、補完して解決・緩和したりすることが求められる。その意味で、福祉関連機関以外の企業や地域の人材の活用が期待されている。	1
家庭を支援する技術 ファミリーソーシャルワークやグループワーク、コミュニティ・ソーシャルワークなどの技術の活用が期待される。あるいは、チームアプローチやネットワーク技術の導入も期待される。	1
家庭支援や地域の子育て支援、児童の権利養護の実践 地域で実際に生じる子どもの事例を検討し、子育て支援や児童の権利擁護の必要性を理解する。	1
理想とする家庭状況や地域環境 乳幼児や児童にとって、彼らに成長や発達、幸福をもたらす家庭状況や地域環境は如何なるものであろうか。これまでの学修を基礎として、理想とする家庭状況や地域環境について検討する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	この科目では、社会福祉実習現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる介護や保育等の関連業務や、実習の記録内容及び記録方法、巡回指導の必要性等、実習全般に関する基本的な事項を学修し、学生一人ひとりの実習に臨む動機や学修目標を明確化する。個人情報保護法の施行を踏まえ、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の重要性を理解する。	
授業の到達目標	実習先および実習内容についての理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
実習申込までの流れを理解する。『福祉・保育実習の手引き』 実習基礎資格科目、実習申込期間、申込手続きについて		1
専門職養成と実習の関係を明確化する(教科書pp. 1-13) 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める。		1
相談援助実習の位置づけと内容(教科書pp.15-39) 相談援助実習を規定する法律の理解と相談援助実習に求められる実習内容について理解を深める。		1
ソーシャルワーカーとしての社会福祉士(教科書pp.41-59) 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性について理解を深める。		1
実習の場と形態(教科書pp.61-72) ソーシャルワーク実習が実施可能な機関・施設の理解とそこでのソーシャルワーク業務について理解を深める。		1
契約関係のなかにある実習(教科書pp.73-83) 実習契約関係と実習におけるリスクマネジメントについて学ぶ。		1
実習スーパービジョンの理解(教科書pp.93-103) 「スーパービジョン」の意味と機能について理解を深める。		1
実習評価の理解(教科書pp.105-116) 実習における「評価」とは何か、その意味を理解する。		1
事前学習として実習先を理解する意義(教科書pp.125-126) 事前学習の重要性について理解を深める。		1
実習先機関・施設、地域の理解(教科書pp.129-137) 実習先機関・施設の概要とその実習内容を理解する。		1
実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(教科書pp.142-149) 実習先機関・施設における利用者と実習先機関・施設のある地域における利用者の理解を深める。		1
実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(教科書pp.150-157) 施設における援助方法と地域における援助方法について理解する。		1
実習先機関・施設の基本的な理解 希望種別に関する調査を行い、選定した機関・施設の理解を深める。		1
社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化		1
実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解(個人情報保護法の理解を含む)		1
計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野(利用者理解を含む)と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。	
授業の到達目標	相談援助実習の仕組みについて理解を深め、実習計画の作成とレポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士 相談援助実習』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
相談援助実習の仕組み(教科書pp.159-179) 相談援助実習の在り方(3段階実習プログラム)を理解する。		1
配属先決定後から実習開始までの流れを理解する。『福祉・保育実習の手引き』		1
配属先実習機関・施設の理解 配属先実習機関・施設の概要、支援内容について情報収集する。		1
施設概要の作成(『福祉・保育実習の手引き』、『福祉実習の学習ガイド』)		1
実習計画の作成(教科書pp.181-184) 実習計画の意義についての理解を深める。		1
実習計画書を作成する(『福祉・保育実習の手引き』、『福祉実習の学習ガイド』)		1
事前訪問における確認(教科書pp.187-192) 事前訪問の目的と意義について理解する。		1
事前訪問における準備(『福祉・保育実習の手引き』) 基本的な態度と訪問時の注意事項について理解する。		1
相談援助技術の理解と実習における実践(教科書pp. 195-207) 基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成、利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成について理解する。		1
相談援助技術の理解と実習における実践(教科書pp.195-222) 利用者や家族との人間関係の形成、権利擁護、支援と評価について理解する。		1
相談援助技術の理解と実習における実践(教科書pp.225-236) チームアプローチの実際、社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任について理解する。		1
相談援助技術の理解と実習における実践(教科書pp.238-254) 実習先機関・施設の経営やサービスの管理運営、地域社会の一員としての実習先機関・施設、実習で何をどこまで経験するのかについて理解する。		1
実習評価の理解(教科書pp.289-307) 実習評価の意義について理解を深める。		1
実習記録の理解(教科書pp.255-268、『福祉実習の学習ガイド』、『福祉・保育実習の手引き』) 実習記録の意義、書き方、取り扱い等について		1
実習スーパービジョン、訪問指導の理解(教科書pp. 269-286) 実習スーパービジョン関係を理解する。		1
計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	社会福祉に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を養う。 集団を活用した相談援助の意義、目的、方法、留意点について学修する。特に高齢者、精神障害者、アルコール・薬物依存患者等に対する集団援助技術や自助グループについて、事例を通して学び、各分野の個別領域への理解を深める。	
授業の到達目標	グループワークの展開過程や、ソーシャルワーカーの役割について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助演習』中央法規。 保田井進、他『福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
人間・集団とグループワーク 人にとっての集団(グループ)について理解する。		1
福祉グループワーク グループワークの定義をもとにその内容を理解する。		1
グループワークの歴史 グループワークの起源と発展を学ぶ。		1
グループワークの理論モデルと動向 グループワークに用いられる理論とその変遷について理解する。		1
グループワークの原則と援助関係 グループワークにおけるソーシャルワーカーの役割・機能等について理解を深める。		1
グループワークの援助過程(1) 準備期と開始期についてその内容とソーシャルワーカーの役割について理解する。		1
グループワークの援助過程(2) 作業期と終結期についてその内容とソーシャルワーカーの役割について理解する。		1
グループワークのプログラム活動と社会資源 プログラム活動の目的・機能、用いる社会資源について理解する。		1
グループワークの記録と評価 記録媒体とその方法、また評価の目的と方法について理解する。		1
グループワークの関連援助技術 グループワークの特質をもとに、関連分野での位置づけと機能を学ぶ。		1
老人デイサービスセンターにおけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。		1
児童自立支援施設におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。		1

知的障害者施設におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。	1
精神保健活動におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。	1
ボランティア活動におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	精神保健福祉援助実習に向けて、精神保健福祉の現状(利用者理解を含む)に関する基本的理解を行い、実際に実習を行う施設・機関・団体・地域社会に関する基本的理解を学ぶ。 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に関する専門的知識と技術に関する理解、特にクライアントに対するかかわりの基本的態度についての理解や、また精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務、守秘義務について学ぶ。これらを踏まえて、実習先の選定と受け入れ決定までの事前準備と調整、手続きについて整理する。	
授業の到達目標	実習の意義や流れについて理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『精神保健福祉士養成セミナー第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
実習申込みまでの流れを理解する(『福祉・保育実習の手引き』) 実習基礎資格科目・実習申込期間・申込手続きについて。実習資格科目の履修や実習時期の計画をたて、実習申込みに備える。実習に必要な手続きについて理解し、実習可能な施設種別等を理解する。		1
精神保健福祉援助実習の意義と目的 なぜ、精神保健福祉援助実習を行うのか考える。宇都宮事件やY問題なども踏まえ、精神保健福祉士が国家資格化した経緯を学ぶ。法制度など、精神保健福祉を取り巻く環境の変化について理解することが必要である。		1
精神保健福祉援助実習の目標～実習に行くということ 実習の目標を明確にする。目標をたてる際に他科目での学修内容を踏まえ、「見た」「聞いた」「知った」だけでなく何を体験し何を考えてみたかを具体的にイメージすることが必要である。		1
精神保健福祉援助実習の学修内容 精神障害者について理解する。精神障害者の定義について学び、精神疾患の各症状や状態がその人の日常生活や社会生活にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。		1
精神保健福祉援助実習の学修内容 施設・機関について理解する。各施設・機関の根拠法や特性、対象者の要件と利用方法などの知識について学ぶ。施設・機関が提供しているサービスや支援の内容についても理解をしておくことが必要である。		1
精神保健福祉援助実習の基本的な流れ 事前準備から事後学習までを理解する。事前の学習によって実習に臨む自己アセスメントを行い、実習計画をプランニングする。その後の配属実習施設決定までの過程において、不足している学習に関する評価(モニタリング)をしながら、必要に応じた再アセスメントを行い、学修を行うという経緯を学ぶ。		1
実習事前準備 実習生に対する期待について理解する。実習において理論と実践の統合化を図ること、実習施設・機関の任務や方針、職務規定を踏まえた上で行動をすること、社会人としてのマナーやルールをわきまえることなどが求められている。		1
実習受け入れ決定までの事前準備と調整 実習生、実習担当教員・実習先に求められる認識について理解する。三者において、実習の位置づけ、実習の展開方法について共有する必要性について理解する。		1
事前学習の意義と目的 言語化と応答性について理解する。自分の言葉で語る力と応答性について学ぶ。応答性が高まると、人と反応しあい、外部に向けての発信作業が行われる。		1
事前学習の内容 精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領について確認する。信用失墜の行為、秘密保持義務、連携、質の向上の責務が法的に規定されている意味を考えることが重要である。		1

事前学習の内容 個人情報と守秘義務について理解する。精神保健福祉士の業務上、精神障害者の疾患の状態、病歴・経歴、その家族関係等の個人の秘密に当たるような事情についても知ることが必要な場合がある。守秘義務が課されている意味について考える。	1
事前学習の方法 実習先を見学する。実習への動機や意欲を高めるため、見学することが望ましい。机上のイメージとは違い、リアルな現場の雰囲気を感じることが必要である。	1
配属実習 配属実習の具体的展開について理解する。配属前の段階、配属実習中、配属実習の終了のそれぞれの段階において、必要な準備や学習について理解する。	1
配属実習 実習指導者と実習担当教員の役割・巡回教員によるスーパービジョンについて理解する。「実習プログラムにおける指導(マネジメント)」と「実習スーパービジョン」の2つの側面を区別し、それぞれの内容について理解をすることが必要である。	1
配属実習 留意事項・実習準備状況と学習過程について。精神保健福祉士の価値、精神障害者や精神科医療と保健福祉に関する現状を理解することが必要である。精神保健福祉援助技術や精神保健福祉に関する法制度について学ぶ。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習機関(利用者理解を含む)と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、実習に関わる個別及び集団指導を通して、精神保健福祉現場での相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。	
授業の到達目標	実習先の概要について理解を深め、実習計画の作成と、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『新版精神保健福祉士養成セミナー第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
実習施設・機関の概要 精神科医療機関の目的・機能と役割について理解する。精神科医療機関は医療法に規定されており、単科の精神科病院、精神科診療所（精神科クリニック）、総合病院の精神科がある。地域にある施設・機関との連携についても学ぶ必要がある。		1
実習施設・機関の概要 障害福祉サービス事業所の目的・機能と役割について理解する。根拠法について学び、障害福祉サービス事業所がどのような理念のもとで事業を展開しているのか理解する必要がある。		1
実習施設・機関の概要 行政機関等の目的・機能と役割について理解する。保健所や、精神保健福祉センターなどは、精神障害者に関する初期段階での相談をはじめ、退院後の地域生活等について相談に応じる機関である。地域における役割や連携についても学ぶ必要がある。		1
実習経験と課題 精神科病院における援助や課題について理解する。精神科病院には部門が多くあり、精神保健福祉士は所属する部門によって役割が異なるが、基本的な役割の共通点を確認しておくことが必要である。		1
実習経験と課題 精神科診療所における援助や課題について理解する。精神科診療所では、地域に根付いた外来精神科医療を展開している。夜間の救急対応などの課題について学ぶ。		1
実習経験と課題 障害者福祉サービス事業所における援助や課題について理解する。障害福祉サービス事業所が、利用者の地域における生活をどのように支援しているのか、そのためどのような理念をもち、何を実行しようとしているのかを学ぶ。		1
精神保健福祉における多職種連携とチームアプローチの実践 多職種連携とチームアプローチの意義等について理解する。精神保健福祉士はさまざまな関係機関と、日々頻繁に連絡を取り合っており、業務を行っている。連携には意図があることや、連携の相手や方法は必要性に沿って選択されることを学ぶ。クライアントのエンパワメントにつながるような多職種連携の在り方について考える。		1
精神保健福祉における多職種連携とチームアプローチの実践 多職種連携における精神保健福祉士の役割について理解する。ニーズの可能性を発見し、相談援助に必要な情報や支援の役割分担を確認したり、他の職種にクライアントの生活上必要な情報を提供したり、相談援助の進行状況を報告する役割について学ぶ。		1
精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務 精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領について確認する。信用失墜の行為、秘密保持義務、連携、質の向上の責務が法的に規定されている意味について学びを深める。		1

組織の一員としての精神保健福祉士の役割と責任 精神保健福祉士に求められる役割と責任について理解する。精神障害者への支援の必要性を考える中で、精神保健福祉士としての理念や思いに葛藤を抱く現実がある。そうした葛藤を抱くだけでなく、よかれと思った支援でさえ、常に精神障害者の人権や権利を侵害する危険性があるという認識を保持する必要性について理解する。	1
地域社会のなかの実習施設・機関とアウトリーチ、地域ネットワーク、社会資源の活用、調整・開発 ケアマネジメント・アウトリーチ・社会資源等について理解する。精神保健福祉士は多職種チームの中で専門性を生かし、存在価値を高めていく職種であり、クライアントの地域での生活を総合的かつ包括的に支援するために、単一の専門職では限界があることを理解する必要がある。	1
実習指導計画の基本モデル 実習指導計画について理解する。実習施設・機関に対する理解、各実習施設機関における精神保健福祉士の位置づけと業務内容について学ぶ。	1
実習計画・施設概要を作成する 実習先に合った実習計画をたて、施設の概要について調べる。施設・機関の①法的位置づけ②地域の情報(人口、歴史、地理など)③概要(歴史、現状など)④組織、機能、⑤職種や業務内容、などについて文献や資料、インターネット等を使い調査する。精神保健福祉の実践場面に身をおいて、体験したいことや考えたいことを具体的に考え、計画を作成する。	1
実習記録の指導 実習記録の意義・書き方について理解する。記録を書くための能力を養うという訓練的な目的と、実習という枠組みにおいて、自己洞察を深めたり、実習の達成度を評価したりする目的について理解する。個人情報について最大限の配慮が必要である。	1
実習スーパービジョン 実習スーパービジョンについて理解する。実習担当教員と実習指導者という二者をスーパーバイザーに持つことを理解する。実習計画に沿って、実習プログラムを活用して、体験的に精神保健福祉士として行動したり感じたり考えたりしながらスーパービジョンを受けることについて理解する。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅰ	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	精神保健福祉の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 2. 個別指導ならびに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。	
授業の到達目標	相談援助に関わる知識と技術について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
自己覚知 自己覚知とは何か、また精神保健福祉士としての自己覚知の意義を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』		1
自己覚知 ジェノグラム、エコマップ、タイムライン等を用いて自己における理解を深める。		1
コミュニケーション コミュニケーションとは何か、コミュニケーションの過程を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』		1
基本的な面接技術 面接における基本的な姿勢（傾聴、共感、距離）について理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』		1
基本的な面接技術 面接における基本的応答技法（反射、言い換え、要約、明確化、受容、開いた質問、閉じた質問など）について理解し、自分のクセを把握した上で、実践できるようにする。		1
グループダイナミクス グループダイナミクスの概念を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』		1
グループダイナミクス グループダイナミクスを活用したグループワークを実践する。		1
情報の収集・整理・伝達 情報の収集・整理・伝達の原則を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』		1
情報の収集・整理・伝達 精神保健福祉士として、適切な情報の収集・整理・伝達の方法を身に付ける。		1
課題の発見・分析・解決 情報収集、整理したものを基に課題の発見・分析・解決に導く方法を学ぶ。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』		1

記録 専門職としての記録の必要性、記録の種類。記録の方法を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』	1
記録 記録作成上の留意点を理解した上で、情報を正確に伝達する記録の方法を身に付ける。	1
地域福祉の基盤整備 地域の基盤整備とは何か理解し、福祉ニーズ把握の必要性と方法を学ぶ。	1
地域福祉の基盤整備 地域の基盤整備に必要な技術(コミュニティ・アウトリーチ、コミュニティ・アセスメント、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発)について理解する。	1
地域福祉の基盤整備 事例を用いて、地域の基盤整備に関する展開を実践的に理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第7巻 精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ	
担当教員の実務経験		
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	1. 具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む)を活用し、現実に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。 2. 事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。	
授業の到達目標	様々な事例に触れて援助方法の理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』へるす出版。	
授業上の注意点		
授業計画(内容)		コマ数
ケースワーク: インテーク終結まで、インテークの展開過程とケースワークの原則を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』pp.53-57		1
ケースワーク: インテーク、アセスメントにおける留意点を理解する。		1
ケースワーク: プランニング～終結に至る支援の流れを把握する。		1
ケースワーク: 事例を用いて援助の展開過程の実際を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
アウトリーチ: アウトリーチとは何か学んだ上で、事例を通してアウトリーチの必要性、アウトリーチの技法を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
ケアマネジメント: ケアマネジメントとは何かを理解し、ケアマネジメントの過程を把握する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
ケアマネジメント: ケアマネジメントの基本理念と原則を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
ケアマネジメント: 事例を通して、ケアマネジメントの過程、原則を実践的に理解し、ケアマネジメントが必要となる状況について考察する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
チームアプローチ: チームアプローチの必要性、チームアプローチの際に留意すべき点を理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
ネットワーキング: ソーシャルサポートネットワーク、ネットワークのタイプについて理解する。		1
チームアプローチとネットワーキング: 事例を通して、チームアプローチとネットワークの必要性について考察する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
社会資源の活用・調整・開発: 社会資源とは何か、社会資源の活用と開拓の方法について理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
社会資源の活用・調整・開発: 事例を通して社会資源の活用・調整・開発が実際どのように行われ、支援の中でどのような意義があるのかを理解する。 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
事例を活用した精神保健福祉の課題の把握と援助の方法事例を読み、それぞれの課題(社会的排除、退院支援、地域移行、地域生活支援、ひきこもり・家族支援、児童虐待)について理解し、援助の方法を学ぶ 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
事例を活用した精神保健福祉の課題の把握と援助の方法事例を読み、それぞれの課題(アルコール依存症、認知症、就労・雇用、ホームレス、精神科デイケア、危機状態、ピアサポート)について理解し、援助の方法を学ぶ 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉士援助演習[基礎][専門]』		1
計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	国家試験対策（専門科目（精神）Ⅰ）	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	精神保健福祉士としての活動に必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深めるとともに、社会資源その他のネットワークを概観する。	
授業の到達目標	精神保健福祉士の知識に必要となる概念をつつてきた歴史・価値観等を理解できる。また、ソーシャルワークの視点の基礎を深めることができる。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「精神専門科目 受験ワークブック」 中央法規「精神保健福祉士国家試験 過去問解説集」	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1.精神疾患総論、精神疾患の治療、精神科医療機関の治療構造及び専門病棟		1
2.精神科治療における人権擁護、精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割		1
3.精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性		1
4.精神の健康と、精神の健康に関連する要素及び精神保健の概要		1
5.精神保健の視点から見た家族、学校教育、勤労者、現代社会の課題とアプローチ		1
6.精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割		1
7.地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題		1
8.精神保健に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携		1
9.諸外国の精神保健活動の現状及び対策		1
10.精神保健福祉士、社会福祉士の役割と意義		1
11.相談援助の概念と範囲、理念、精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方		1
12.相談援助に係る専門職の概念と範囲		1
13.精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲		2
14.精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容		2
15.精神保健医療福祉の歴史と動向、精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識		2
16.精神科リハビリテーションの概念と構成、精神科リハビリテーションのプロセス		2
17.相談援助の課程及び対象者との援助関係、面接技術、活動の展開		2
18.スーパービジョンとコンサルテーション、地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制		2
19.地域を基盤にした相談援助の主体と対象、リハビリテーションの基本的考え方、ケアマネジメント		2
20.地域を基盤にした支援とネットワーク、地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開		2
21.精神保健福祉法とそのサービス、精神障害者に関連する社会保障制度の概要		2
		計 30
		授業単位数 2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	国家試験対策（専門科目(社会)Ⅰ）	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	社会福祉士としての活動に必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深めるとともに、社会資源その他のネットワークを概観する。	
授業の到達目標	社会福祉士の知識に必要となる概念をつくってきた歴史・価値観等を理解できる。また、ソーシャルワークの視点の基礎を深めることができる。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「社会専門科目 受験ワークブック」 中央法規「社会保健福祉士国家試験 過去問解説集」	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1.社会調査の基礎		3
2.相談援助の基盤と専門職		4
3.相談援助の理論と方法		4
4.福祉サービスの組織と経営		4
5.高齢者に対する支援と介護保険制度		4
6.児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		4
7.就労支援サービス		3
8.更生保護制度		4
計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	国家試験対策（共通科目Ⅲ）	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	社会福祉士又は精神保健福祉士としての活動に必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深めるとともに、他領域とのチームアプローチ及び社会資源その他のネットワークを概観する。	
授業の到達目標	ソーシャルワーカーとしての知識・技術・視点等に必要となる概念を理解できる。また、ソーシャルワークの視点の理解を基にした自身の活動の基礎を培う。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する。	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「共通科目 受験ワークブック」 中央法規「福祉士国家試験 過去問解説集」	
授業上の注意点	共通科目「社会保障」「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」「低所得者に対する支援と生活保護制度」「保健医療サービス」「権利擁護と成年後見制度」の各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1.現代社会における社会保障制度の課題		1
2.社会保障の概念や対象及びその理念		1
3.社会保障の財源と費用		2
4.社会保険と社会扶助の関係		1
5.公的保険制度と民間保険制度の関係		1
6.社会保障制度の体系		2
7.年金保険制度の具体的内容		1
8.医療保険制度の具体的内容		1
9.諸外国における社会保障制度の概要		1
10.障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要		1
11.障害者福祉制度の発展過程		2
12.障害者総合支援法		2
13.障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際		1
14.障害者総合支援法における専門職の役割と実際		2
15.障害者総合支援法における他職種連携、ネットワーキングと実際		1
16.相談支援事業所の役割と実際		1
17.身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法		1
18.児童福祉法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法		1
19.医療観察法、バリアフリー新法、障害者雇用促進法		1
20.低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際		1
21.生活保護制度		2
計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ソーシャルワークの基礎	
担当教員の実務経験	地域包括新センター勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義[○]・演 習[○]・実 習[]	
授業の概要	ソーシャルワークに関する基礎的な知識や理念、価値、倫理について学び、専門職としての役割と機能を理解する。利用者の尊厳や権利を尊重した支援のあり方を学ぶとともに、将来ソーシャルワーカーとして実践を行うための基盤となる知識と視点を養う。	
授業の到達目標	実習先および実習内容についての理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	『最新社会福祉士精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規	
授業上の注意点		
授業計画(内容)		コマ数
第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ①		1
第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ②		1
第2章 ソーシャルワークの概念		1
第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方①		1
第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方②		1
第4章 ソーシャルワークの形成過程①		1
第4章 ソーシャルワークの形成過程②		1
第5章 ソーシャルワークの倫理①		1
第5章 ソーシャルワークの倫理②		1
第6章 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲(社会専門)		1
第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(社会専門)		1
第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(社会専門)①		1
第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(社会専門)②		1
ミニテスト		1
科目終了テスト		1
計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症ケア	
担当教員の実務経験	地域包括新センター勤務経験	
対象学生	社会福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義[○]・演 習[○]・実 習[]	
授業の概要	認知症や認知症ケアを学び、認知症の方やそのご家族に適切な認知症ケアを通じて、尊厳、安心を提供するための専門知識を習得する。	
授業の到達目標	認知症の方への適切なケア、ケアを行う方への指導・管理を行える人材の育成など、介護・医療現場で認知症ケアに携わる方の専門性向上を目的に創設された認知症ケア指導管理士の資格取得を目指す。	
成績評価方法と基準	検定試験の可否のほかに、出席状況や授業への取り組み姿勢など総合的に評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	改訂版 認知症ケア指導管理士試験(初級)公式テキスト	
授業上の注意点		
授業計画(内容)		コマ数
1. 認知症高齢者の現状		1
2. 認知症の医学的理解		1
3. 認知症の心理的理解		1
4. 認知症ケアの理念と認知症ケア指導管理士の役割		1
5. 認知症ケアの実践		1
6. 日常生活支援		1
7. 認知症への薬物療法、非薬物療法		1
8. 家族への支援と高齢者虐待防止法		1
9. 認知症ケアにおける社会資源①～医療保険制度・介護保険制度の概要～		1
10. 認知症ケアにおける社会資源② ～公的年金制度と生活保護制度～		1
11. 認知症ケアにおける社会資源③ ～成年後見制度と日常生活自立支援事業・高齢者虐待防止法の概要～		1
12. 認知症ケアにおける社会資源④ ～悪徳商法とクーリングオフ制度と各種のインフォーマルサービス～		1
13. 認知症ケアにおける社会資源⑤ ～認知症カフェ見学～		1
14. ミニテスト		1
15. これまでの学習を振り返って(グループワーク)		1
計		15
授業単位数		1